

ブックレビュー

● Corrosion Resistance Tables ●

Metals, Nonmetals, Coatings, Mortars, Plastics, Elastomers and Linings, and Fabrics

改訂・拡充第 3 版

P. A. SCHWEITZER 著 1991 年 Marcel Dekker, Inc. 発行

B 5 判 2776 頁, 定価 \$ 287.50

本書は、Corrosion Technology シリーズの第 4 巻である Corrosion Resistance Tables の改訂第 3 版である。旧版と比較して、最新のデータを採用するとともに、データ数を 2 倍に拡充したことを特徴としており、2 分冊で 2776 ページの大部である。

本書の目的は、化学技術者が反応容器、貯蔵タンク、配管系、弁、およびガasket など設計する際の、材料選択に関する指針を提供することにある。33 種の金属・合金に関しては、約 700 種類におよぶ腐食剤中での腐食速度を整理しており、また、4 種の非金属、17 種のコーティング、8 種のモルタル、40 種のプラスチック、28 種のエラストマー・ライニング、および 3 種の織物という広範な材料に関しては、前記腐食剤中での使用の可否をまとめている。腐食速度が温度の関数として顕著に変化することから、腐食データも 15°C から 238, または 293°C までを整理しているので、材料選択に際しては極めて有益な情報を入手できる。

したがって、著者が期待しているように、公害、産業廃棄物などに関して、新しい化学品の処理が必要になった場合などには、参考になるデータ集であろう。しかしながら、金属・合金の腐食形態に関して、全面腐食、ガルバニック腐食、応力腐食割れ、粒界腐食を考慮する必要があることを緒言で記述しながら、肝心のデータでは一切触れられていないのはいかにも片手落ちである。 (川崎製鉄(株) 森戸延行)

訂 正

論文「溶鉄のバリウムによる脱酸平衡」(鉄と鋼, 78 (1992) 2, p. 253) 脚注に誤りがございましたので、次のとおり訂正させていただきます。訂正箇所はゴチック体で示してあります。

* 東北大学大学院 (現: 日新製鋼(株), (社)日本鉄鋼連盟へ出向中) (Graduate School, Tohoku University, Now Nisshin Steel Co., Ltd., The Japan Iron & Steel Federation)

● 編集後記 ●

本号の編集後記を書いておりますのは寒の最中で、背中を丸めながら歩いている自分の姿を反省しつつ、本号が発行される頃の春の暖かさを待ち遠しく思っているところです。

昨年のソ連消滅に伴い、冷戦体制後の新しい秩序構築に向けて、政治・経済を始めとして多方面での活発な議論が行われており、真の世界平和が訪れることを祈っているところでもあります。

本誌の編集のお手伝いをさせていただくようになって一年半になりますが、その間、当編集委員会でも“魅力ある「鉄と鋼」”を作るための議論が繰り返し行われるのを目の当たりにして、感心すると同時に、当協会の活動をより充実したものにしようという、先輩の

方々の熱意に頭の下がる思いをして参りました。

今月号には、新しい規程による「現場技術報告」も掲載されていますので、今度の改善策の一つが形となって現れていることにお気づきのことと思います。貴重な技術情報源として活用されることを期待しております。

一方、プロセス・設備に関連した報告は、「材料とプロセス」には多く投稿され、また、春と秋の講演大会でも活発な議論が行われていますので、盛んに研究・開発が行われていることが伺い知れるのですが、その割には、本誌への論文投稿が少ないように思われます。この分野でのより積極的な投稿を心より願います。 (I. M.)